

伊方町議会第83回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
阿部 孝志 議員	1 伊方町における移住促進について	町 長
質問の要旨		
<p>今年度、伊方町は合併20周年を迎えました。合併当時の伊方町の人口は13,076人でしたが、20年経過した現在は7,528人となり、42.4%減となっています。</p> <p>今後予想される人口推移では、国立社会保障人口問題研究所の推計によれば、10年後の令和17年は5,600人、20年後の令和27年は4,146人となっています。</p> <p>伊方町では、少子高齢化と人口減少が進行し、特に若年層の流出による地域活力の低下や労働力不足、空き家の増加が深刻化しております。</p> <p>加えて、町の地形的な制約もあり、雇用・交通・住宅などの面で都市部との格差が大きいのが現状です。</p> <p>こうした中で、全国的には「地方への移住」や「二拠点居住」の動きが広がっており、テレワークや多様な働き方の普及により、地方での暮らしが現実的な選択肢となりつつあります。</p> <p>伊方町は海・山・風などの自然資源に恵まれ、再生可能エネルギーや農業、漁業観光など、地域の特色を活かした新しいライフスタイルの実現が可能な地域でもあります。</p> <p>「地方への移住促進」は、人口減少対策だけでなく、地域の未来を築く重要な施策と考えます。</p> <p>そこで伊方町における移住促進策について質問をいたします。</p> <p>1. 現状の確認</p> <p>本町における近年の移住・定住の状況、移住者数や相談件数の推移について、現状をどのように把握しておられるか伺います。</p> <p>また、移住支援制度（補助金・住宅支援・移住相談窓口など）の実施状況と課題についてもお聞かせください。</p> <p>2. 課題の整理</p> <p>全国的な傾向から見ても、移住を阻む要因は主に次の3つに集約されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事が見つからない（雇用・収入面の不安） 2. 住まいが確保しにくい（空き家の情報不足・改修費の負担） 3. 地域に馴染みにくい（人間関係・生活利便性） <p>伊方町でもこれらの課題が存在すると考えますが、特に若年層・子育て世代が「住みたい」と感じるためには、どの部分に最も力を入れるべきとお考えか、見解を伺います。</p>		